

イラク戦争後の国際石油情勢について

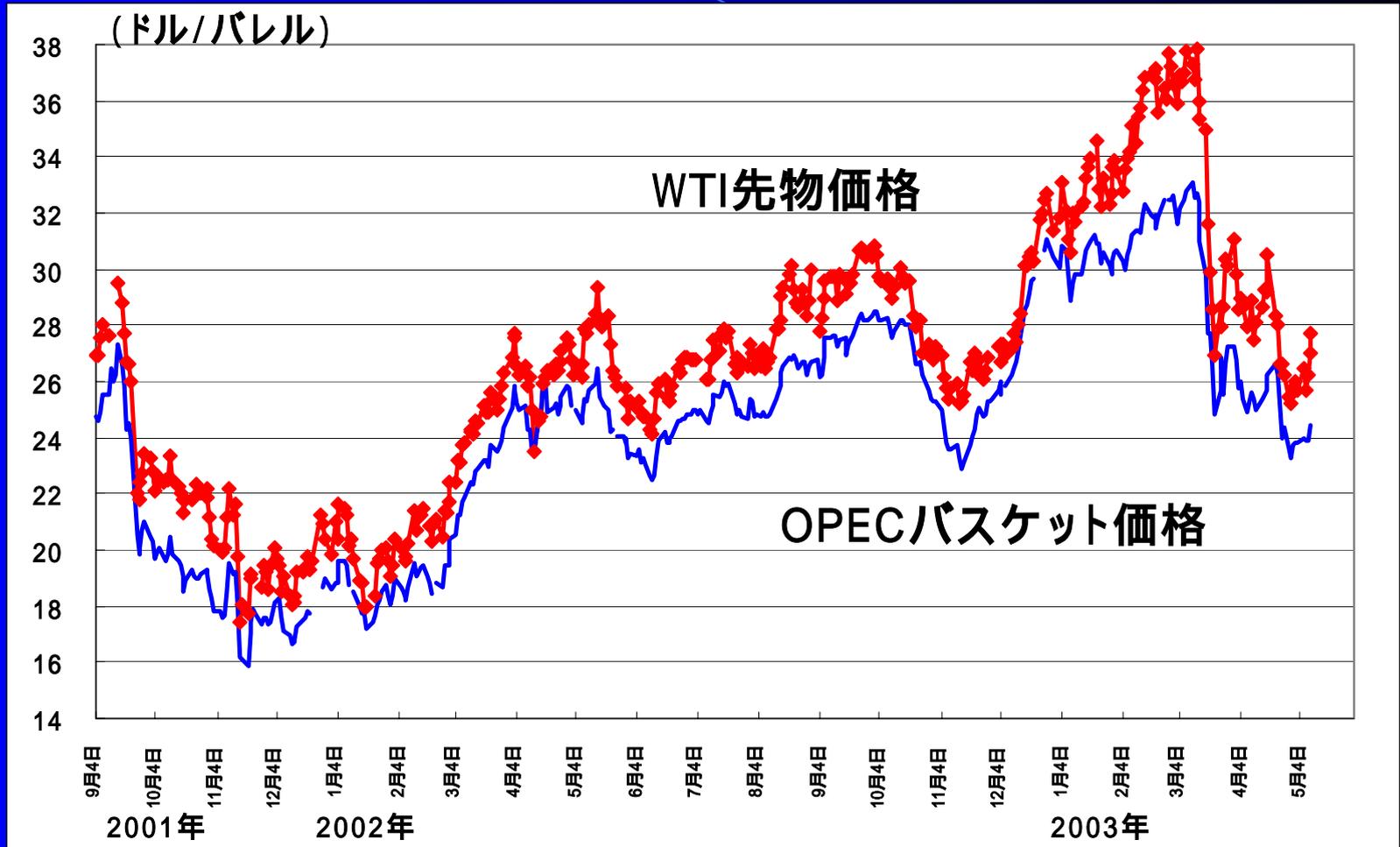
2003年5月13日

(財)日本エネルギー経済研究所
エネルギー動向分析室長 小山 堅

報告のポイント

- Geopolitical factorによる不透明性は持続するものの、需給ファンダメンタルスが主要なドライバーに
- 現状におけるファンダメンタルスの特徴：
 - 大幅な「供給超過」の可能性 VS. 米国市場における低在庫水準
- 当面はエネ研「イラク安定化シナリオ」(2Q: WTIで\$25-30、3/4Q: \$22-24)の推移か(しかし不安定かつボラティリティの高い状況が持続)
- 今後の需給バランスにおける主要なポイント：
 - 石油需要の伸びに関する不透明感(ダウンサイドリスクが大)
 - 非OPEC供給は堅調に増加
 - イラクの市場復帰のタイミングとマグニチュード
 - ベネズエラ、ナイジェリア等の動向
 - 上記問題等に対するOPECの対応と今後の生産政策

同時多発テロ以降の原油価格



(出所)NYMEX資料、OPECホームページ等より作成

OPEC産油国の原油生産状況

	原油生産能力 (1,000 B/D) (A)	2003年4月生産量 (1,000 B/D)	現時点での生産量 (1,000 B/D) (B)	余剰能力 (1,000 B/D) (A) - (B)	生産枠 (現時点) (1,000 B/D)
アルジェリア	1,200	1,200	1,200	0	780
インドネシア	1,050	1,030	1,030	20	1,270
イラン	3,750	3,750	3,750	0	3,600
イラク	2,800	50	200	2,600	
クウェート	2,450	2,400	2,400	50	1,970
リビア	1,400	1,430	1,430	-30	1,310
ナイジェリア	1,900	1,800	2,040	-140	2,020
カタール	850	750	750	100	640
サウジアラビア	10,500	9,600	9,600	900	7,960
UAE	2,500	2,300	2,300	200	2,140
ベネズエラ	2,600	2,500	2,600	0	2,820
合計	31,000	26,810	27,300	3,700	24,500
OPEC10(イラク除く)	28,200	26,760	27,100	1,100	
OPEC9(イラク・ベネズエラ除く)	25,600	24,260	24,500	1,100	

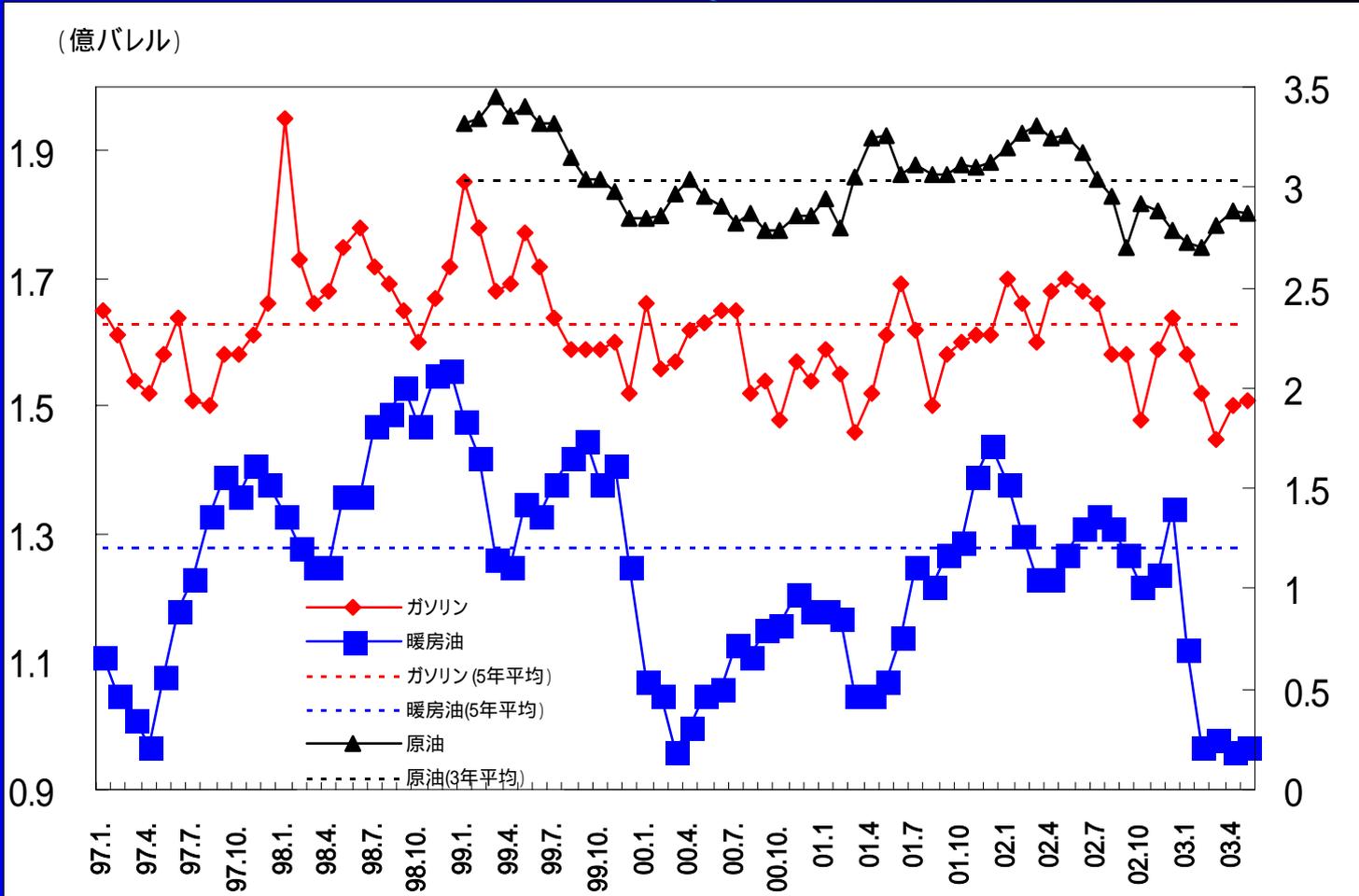
(出所) EIA資料より作成

(注) 生産能力については4月末発表数値を採用、生産量は5月12日時点発表データ

第125回OPEC総会の決定とOPECの動向

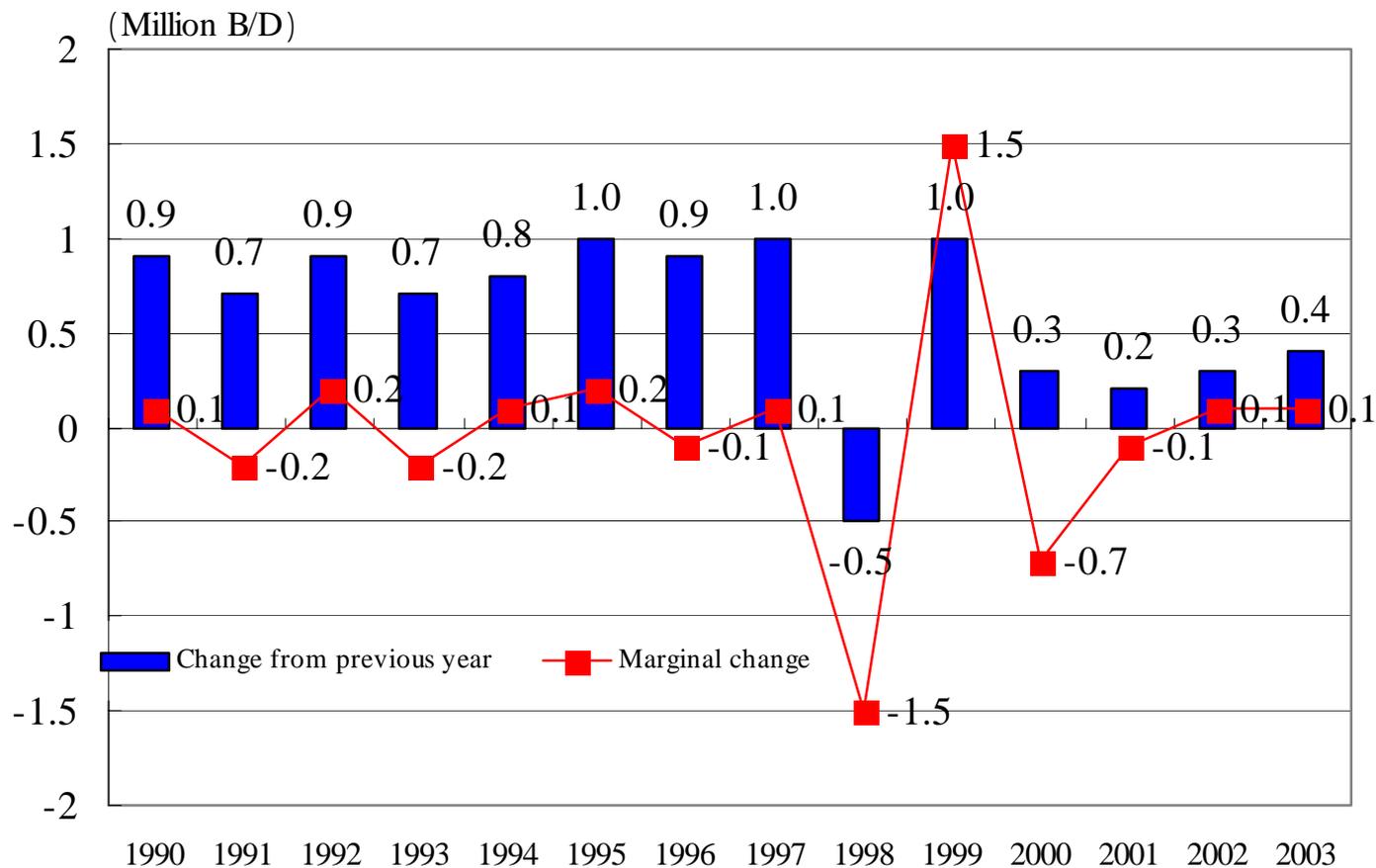
- 6月1日から、生産量を「現状」から200万B/D削減し、新生産枠を2540万B/Dとする
 - OPECにとっての様々な「ニーズ」を満たすための一種の妥協の産物
 - 追加的削減に関する言及で、価格低落は一応沈静化
 - OPECにとって今後の舵取りも困難な状況が持続

米国の民間石油在庫の状況



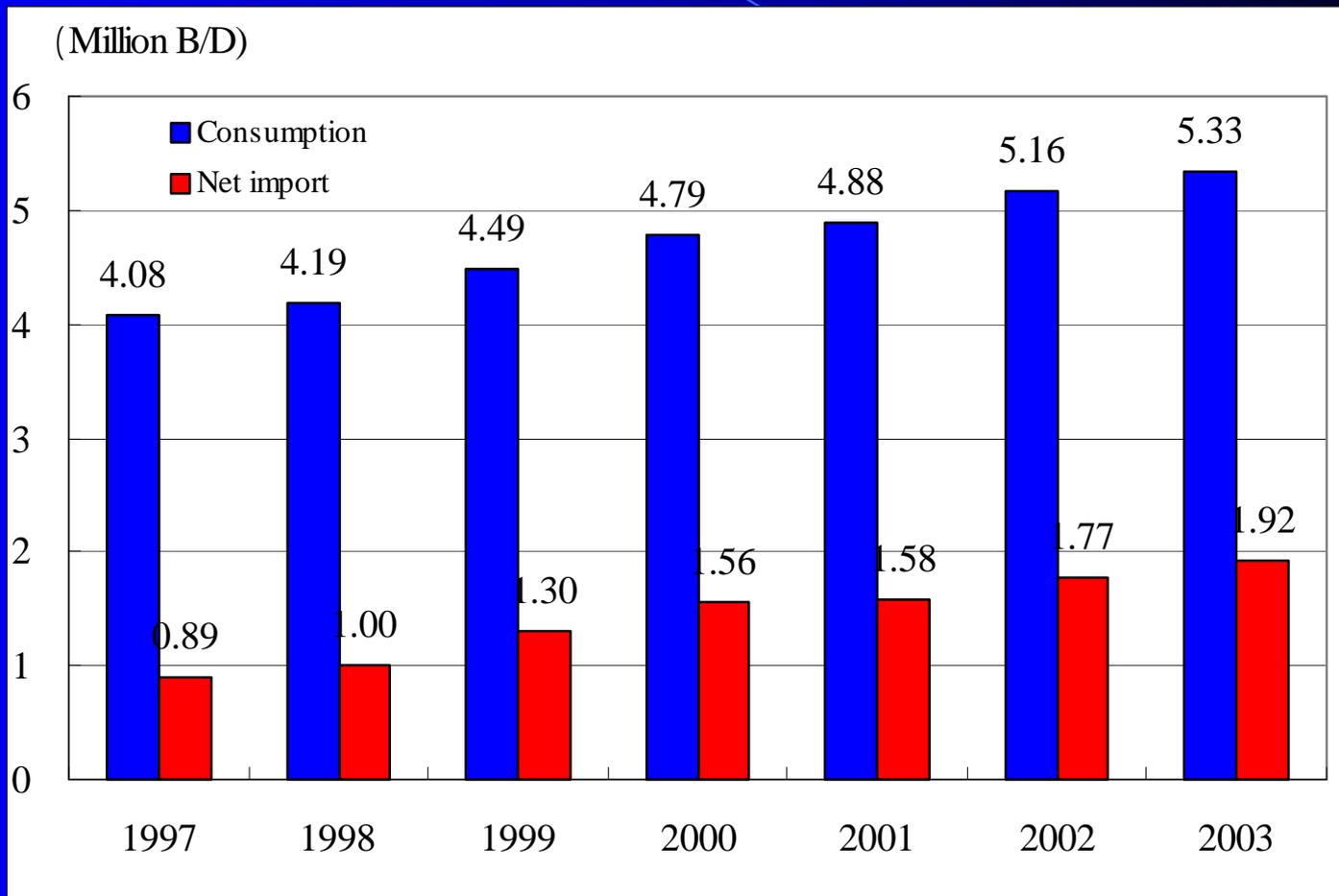
(出所) EIA資料より作成

アジアの石油需要動向



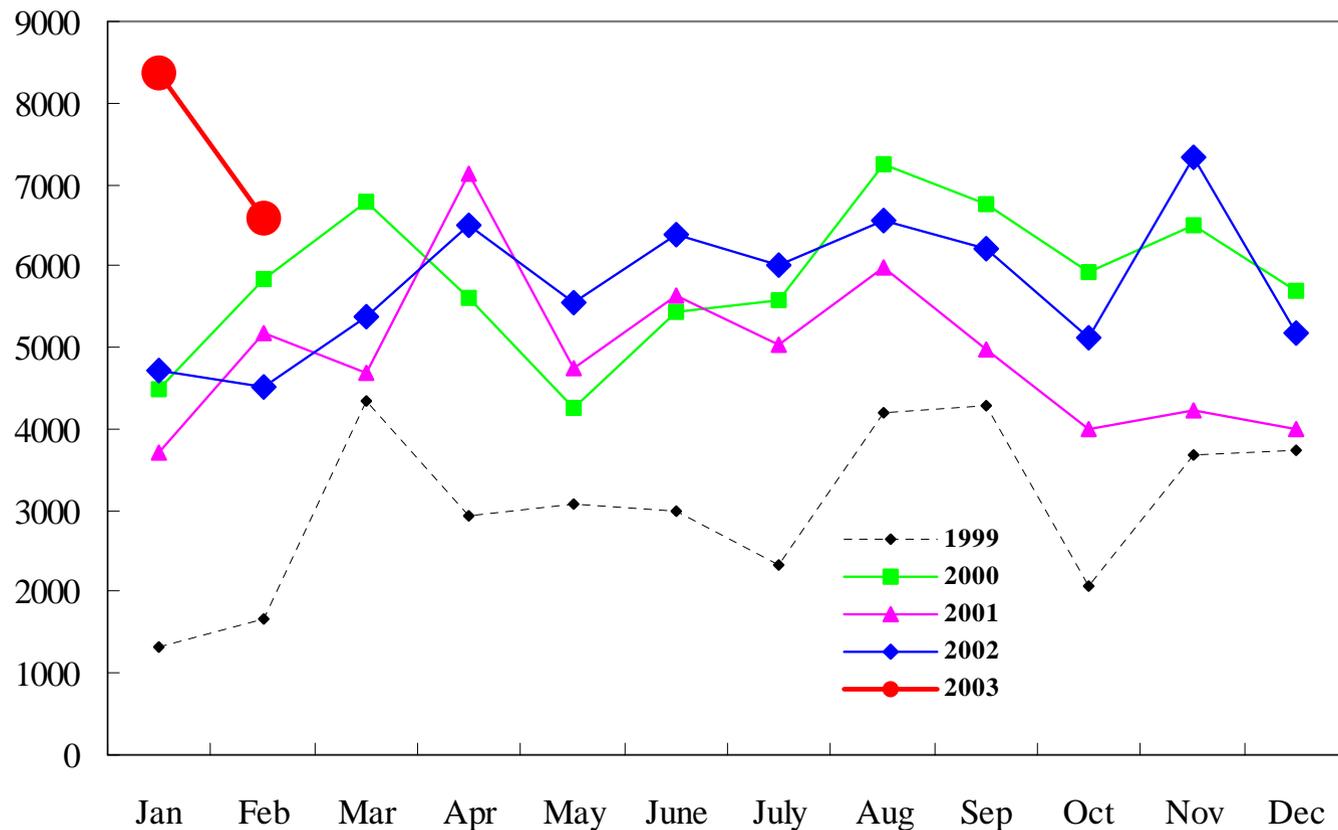
(出所) IEA, "Oil Market Report."

鍵握る中国の石油需要・輸入動向



(出所) IEA, "Oil Market Report."

中国の月別原油輸入動向

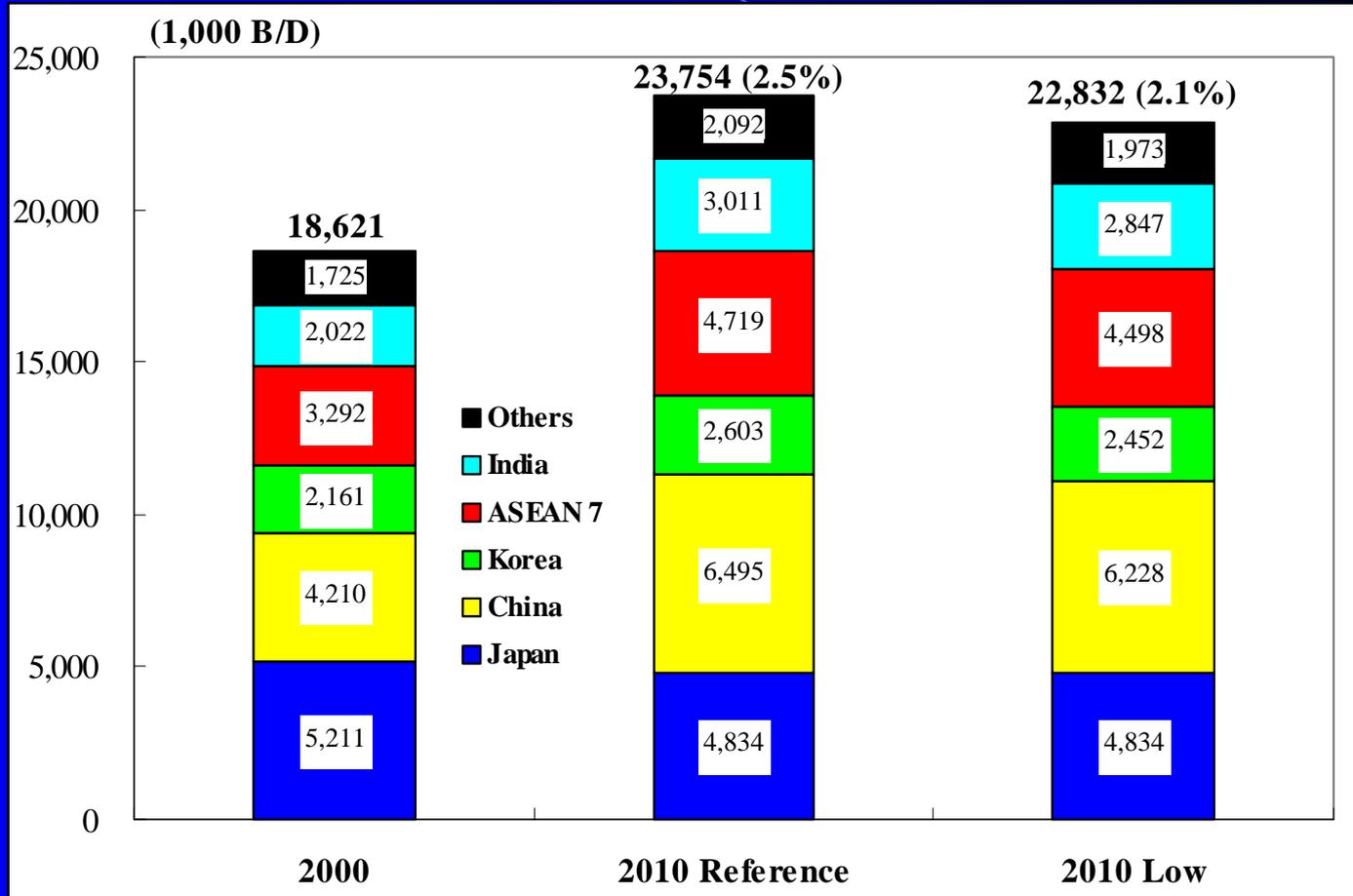


(出所) 貿易統計より作成

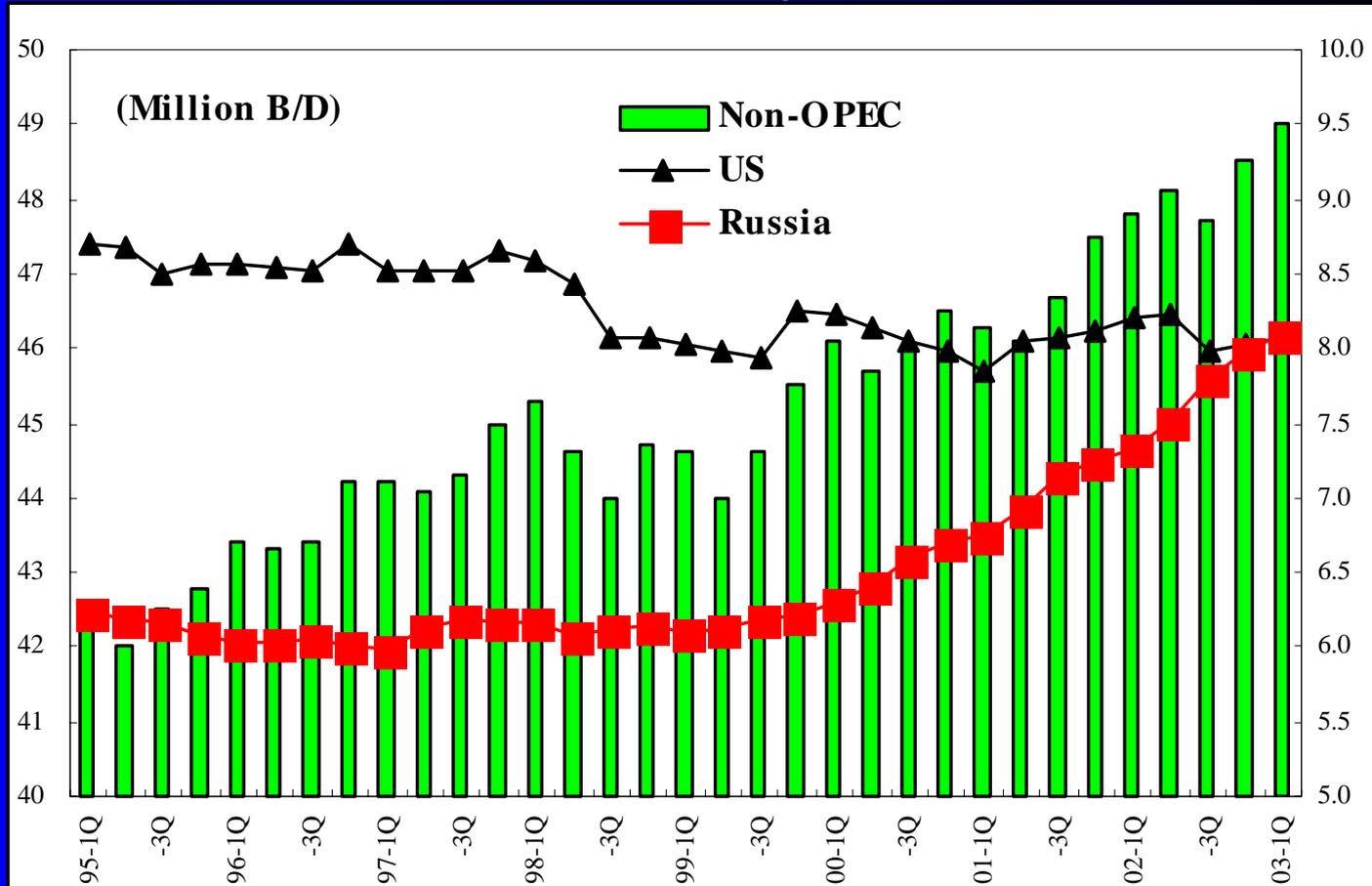
アジアの石油需要に関する不確実性

- 米国(世界)経済の先行き不透明感
- 日本の原子力停止に伴う「追加需要」の行方
- アジア諸国におけるイラク戦争対応の備蓄・在庫積み増しの影響
- SARSによる国内経済、輸送用需要への負の影響

アジアの石油需要見通し（エネ研推定）

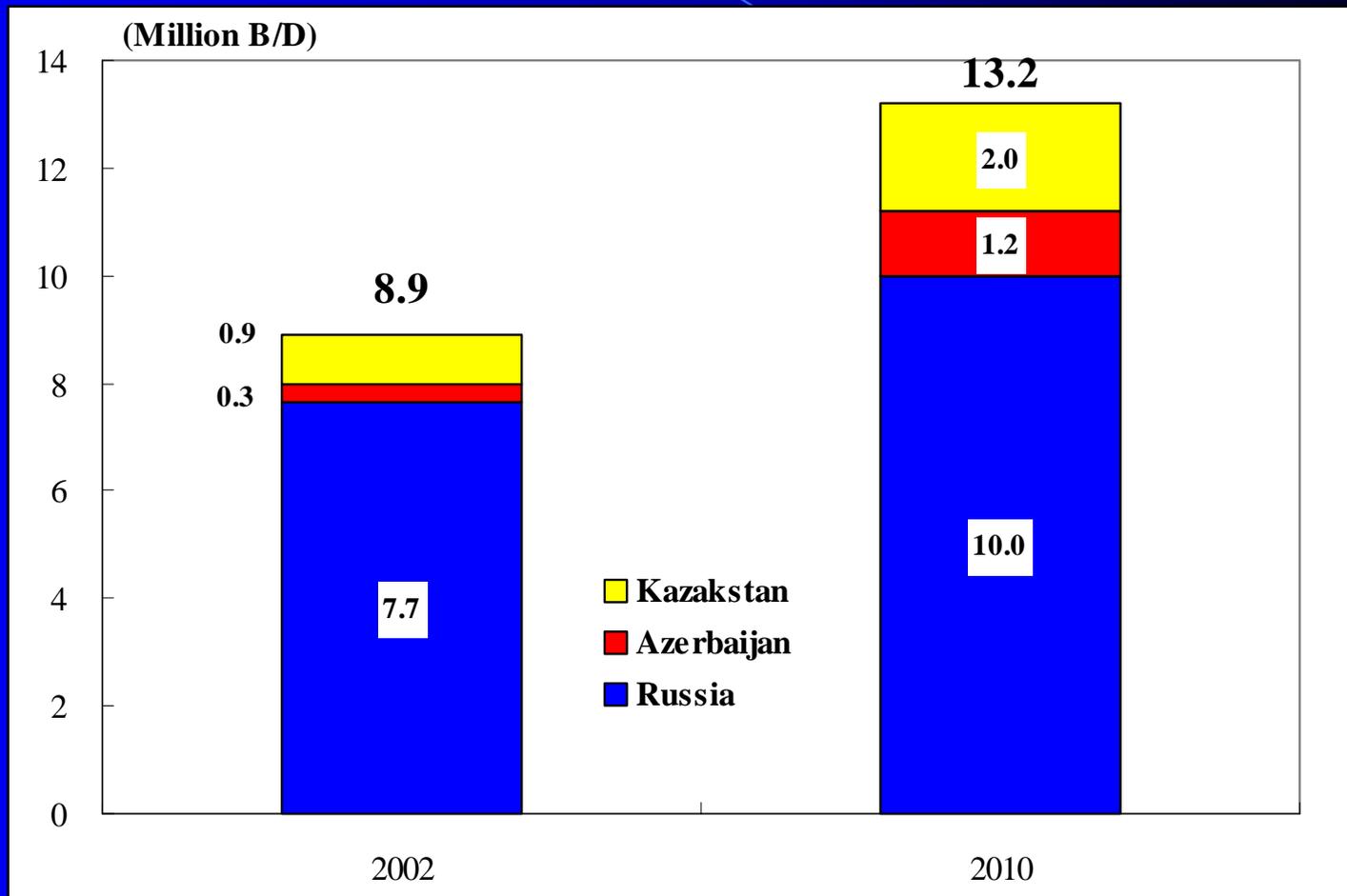


非OPECの石油生産状況



(出所) IEA, "Oil Market Report."

ロシアおよびカスピ海主要国の生産増強



(出所) エネ研推定

1998年以降のイラクの原油生産動向

(万B/D)

350

300

250

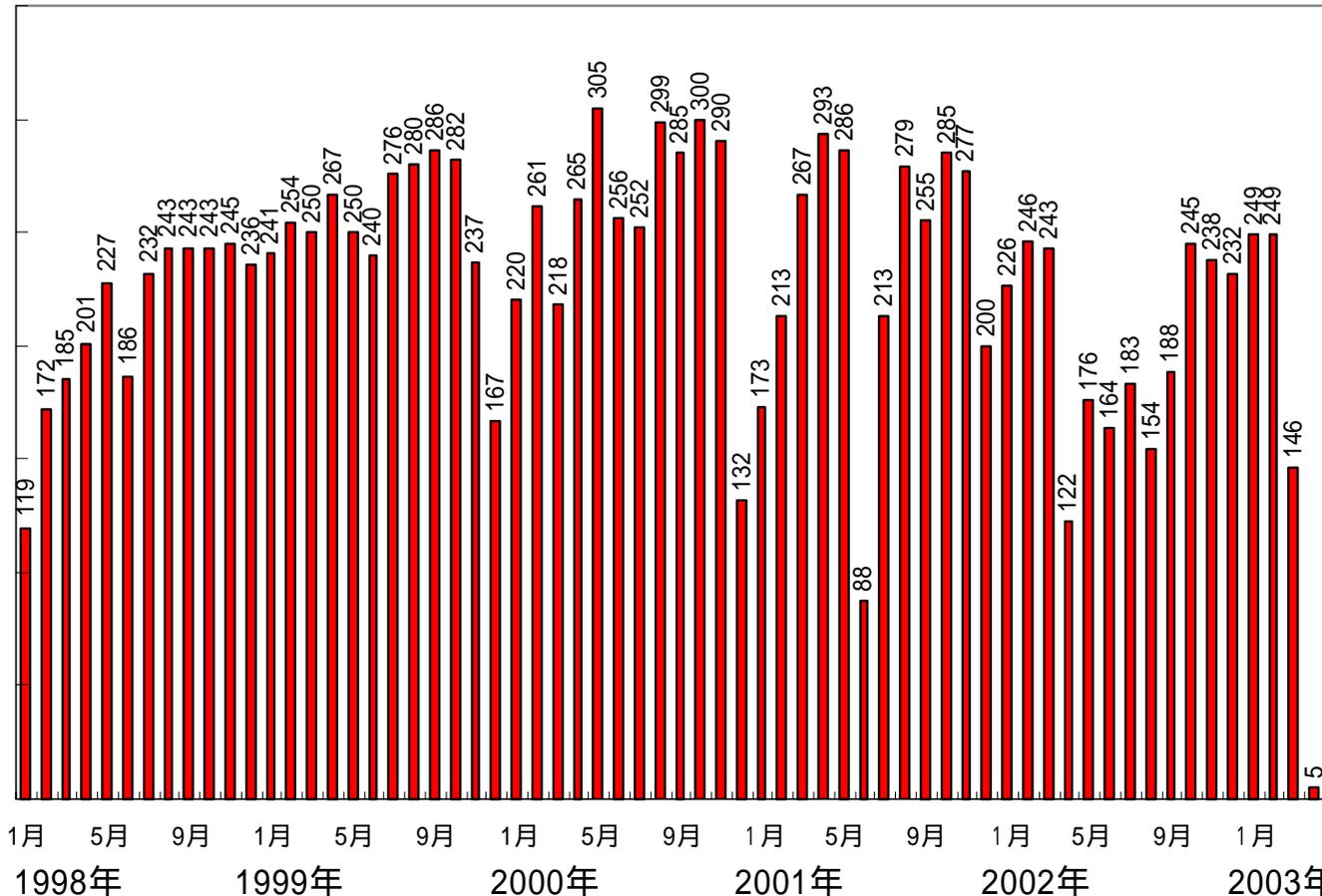
200

150

100

50

0

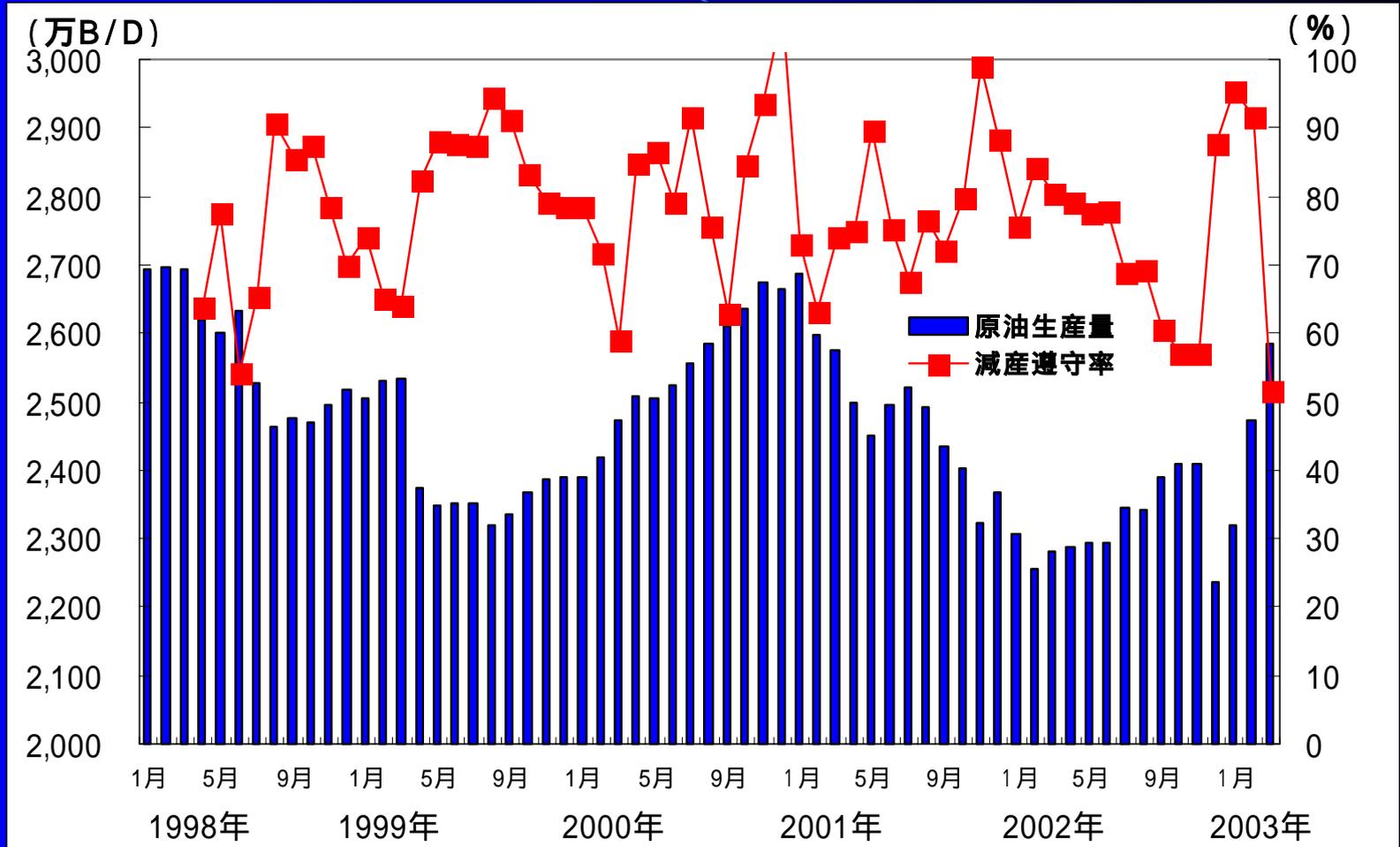


(出所) IEA, "Oil Market Report." (2003年4月はEIA)

イラクの市場復帰に関する動向とポイント

- 戦争被害は比較的軽微
 - 戦後復興、イラク再建にとって「頼みの綱」は石油部門のみ
 - 石油部門復興にとって最大の鍵は、「正統性」確保
- 
- 先行き不透明な「暫定政権」設立までのプロセス、その形態・安定性
 - 米国主導のORHAおよび文民行政官による復興の模索と石油部門再建のためのアドバイザーボード(元米国シェルのキャロル氏+イラク人テクノクラートの組み合わせ)および暫定石油省
 - 輸出再開を巡る国連での議論再開へ(米決議案:経済制裁の解除、イラク中銀にイラク支援基金設立し管理主体は占領軍)。予断許さぬ仏露独等との調整
 - 物理的には本年末には250万B/D強の生産水準への回復も可能
 - 湾岸戦争前の生産水準(350万B/D)への回復には、技術サービス会社等による「短期的投資」で対応可能か
 - それ以上の水準への増強には長期・本格投資が不可欠。国際石油企業(メジャー)等も慎重な姿勢。500~600万B/D以上の水準への到達は少なくとも7~8年程度必要との見解も

OPEC10の原油生産動向

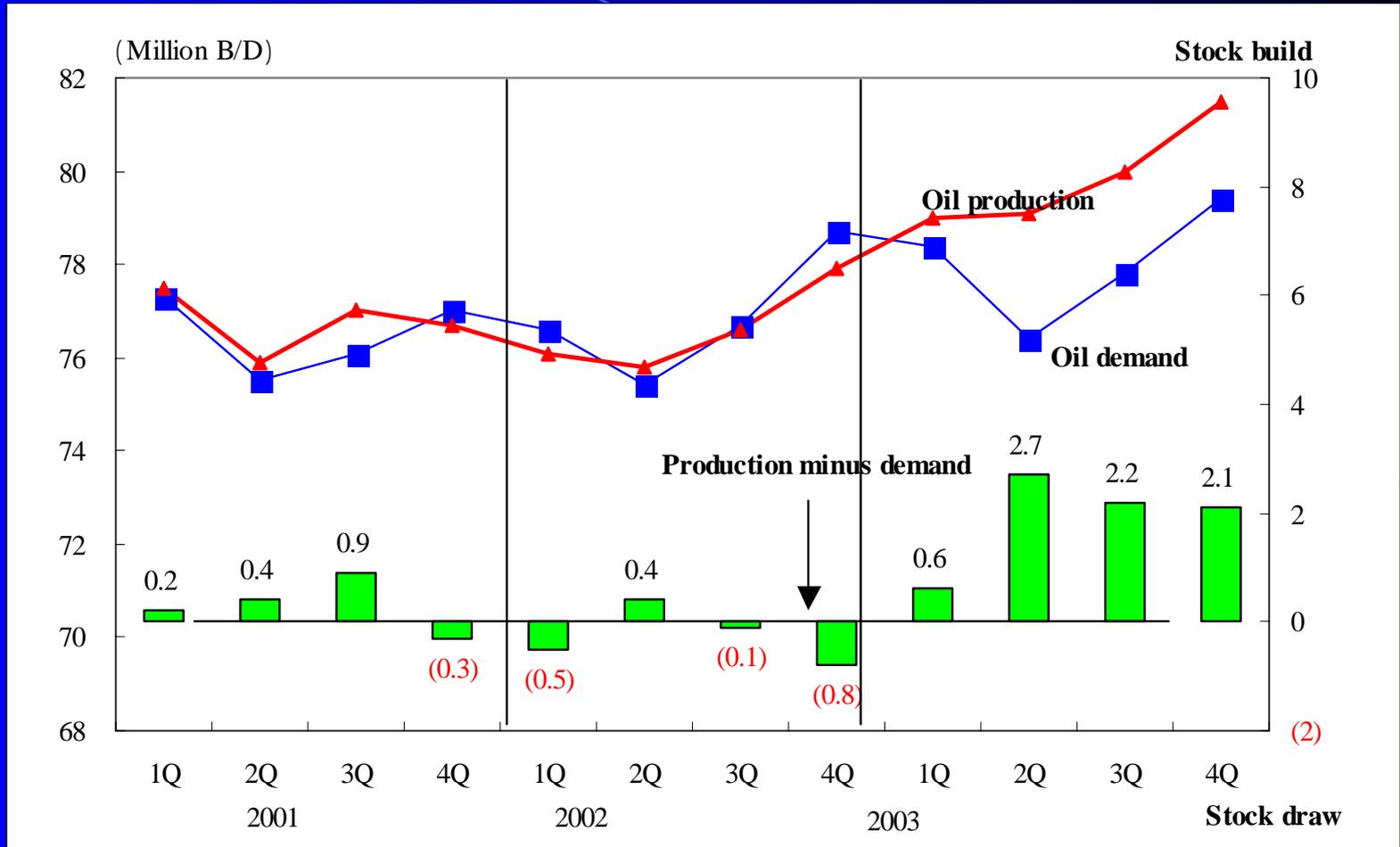


(出所) IEA, "Oil Market Report."

OPEC生産調整に関する基本的な問題

- 現時点までのOPEC結束を支えた要因は、1998 - 99年の低価格。Cheatingの発見・防止に関する内在的なメカニズムの欠如
- 2001年以降、OPECは需要の低迷、非OPEC生産の着実な増加という課題に直面。当面は対OPEC需要は伸び悩みの可能性大
- 市場（価格）安定化の追及は市場シェアの喪失、非OPECの「free ride」をもたらすのみとの懸念
- 市場状況に関する著しい不確実性の存在かつ一部産油国における生産能力増強化での生産調整遵守の困難さ
- イラク復帰に伴うOPEC10における調整・再配分問題の浮上
- OPECの目標価格レンジ（\$22-28）の妥当性
- 「不完全な情報」と「micro-management」の困難さ

当面の需給バランス見通し



(注) イラクの生産は2Q:0.3 MBD、3Q:1.2 MBD、4Q: 2.0 MBDと想定。またOPEC 10の生産については、2Q:26.0 MBD、3-4Q:25.4 MBDと想定

(出所) 2003/1QまではIEA, "Oil Market Report.", 以降は筆者推計

まとめ

- 石油需要の低迷、非OPEC増産、イラク復帰の状況下、2003年の石油需給は緩和基調を強める公算大
- 鍵握るOPECの対応：
 - 比較的堅調な対OPEC需要 + 減産強化成功：
ソフトランディングへ
 - 対OPEC需要大幅減少 + 規律回復せず：
価格崩落の可能性も
- 中長期的には持続可能な価格水準(20ドル前後?)の方向へ
- 現在までの「高価格」および「地政学的要因」が、今後の需給変動(の増幅)をもたらす主要因に
- 大幅な価格変動、高いボラティリティ持続は必至か